

## スタート動作に関わるルール修正・運用の変更について

(一財)長野陸上競技協会 競技運営委員会審判部

2012年度日本陸上競技連盟全国競技運営責任者会議において、スタート動作の判定に関する統一見解が出されました。(競技規則の修正については、「陸上競技ルールブック2013」を参照されたい。)これらの対応について、長野陸上競技協会競技運営委員会審判部で検討し、今年度の競技運営については以下のように実施することになりましたので、周知します。

### 1. 「不正スタート1回で失格」となる競技会について

日本陸連主催・共催する競技会では、国際規則に準じ、不正スタート1回で失格となっておりますが、2013年度以降、それ以外の競技会でも主催者の判断により不正スタート1回で失格となる競技会が存在するようになります。つまり、「不正スタート1回で失格」となる競技会と、「不正スタート2回目以降は誰でも失格」となる競技会の両方が存在するようになります。

《2013年度 長野県で「不正スタート1回で失格」を適用する大会》

国体予選(長野:7月6日(土)・7日(日)) / 県選手権(松本:8月31日(土)・9月1日(日))

### 2. 混成競技の不正スタートについて

2012年度まで、混成競技においては「一人2回で失格」のルールが適用されていましたが、2013年度より、一般種目と同様に「不正スタート2回目以降は誰でも失格」が適用されます。

### 3. 「不適切なスタート動作」に関する警告について

“On your marks”あるいは“set”の合図の後、スターターの指示に従わない不適切な行為があった場合、警告を受けることになります。同じ競技者が2回警告を受けた場合、1回の不正スタートを行ったものとします。(「不正スタート2回目以降は誰でも失格」の競技会においては、同じ競技者が警告を3回受けた場合、失格となります。)

《不適切なスタート動作(警告の対象となるもの)》

#### 1) “On your marks”の時

- ①なかなか位置についての姿勢を取らない。
- ②身体を止めない。
- ③手を挙げてスタートを中断させる。

#### 2) “set”の時

- ①速やかに最終のスタート体勢に構えない。(腰を遅く上げる)
- ②最終のスタート体勢で静止しない。
- ③一旦静止した後で動く。(局所的な一瞬の動きを含む)

- a)ぴくっと動く b)身体が沈み込む c)身体が前に動き出す d)両手がガタガタと動き出す  
e)足がスタブロに固定できずずれ落ちる

※膝をつかない、手がスタートライン上などは、「注意」の対象である。

※上記の警告を除き、スタート信号の発射を認識する前に、競技者が足をブロックから、あるいは手を地面から離してスタート動作を開始したと判定した時は、信号器の発射前・発射後に関わらず全て不正スタートとして扱います。(つまり、号砲前の飛び出しは不正スタートとなります。)

【不正スタート・不適切行為による失格になる実際例】

1 回 失 格 が 適 用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1回の不正スタート→失格 Aが不正スタート …Aが失格</li> <li>○ 同じ競技者が2回目の不適切行為による警告→失格 Bが不適切行為—Bが不適切行為 …Bが失格</li> </ul>
1 回 失 格 を 適 用 し な い (2 回 目 以 降 は 誰 で も 失 格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2回目以降の不正スタート→失格 Cが不正スタート—Dが不正スタート …Dが失格</li> <li>○ 同一競技者が警告を2回受けた後に不正スタート→失格 Eが不適切行為—Eが不適切行為—Fが不正スタート …Fが失格</li> <li>○ 1回の不正スタート後に、同一競技者が2回目の警告→失格 Gが不正スタート—Hが不適切行為—Hが不適切行為 …Hが失格 (始めに1回目の警告、次に不正スタート、その後の2回目の警告でも適用) Hが不適切行為—Gが不正スタート—Hが不適切行為 …Hが失格</li> <li>○ 警告2回が複数名出る(警告2回が2人目以降)→失格 Iが不適切行為—Iが不適切行為—Jが不適切行為—Jが不適切行為 …Jが失格 ※順番は問わない。</li> <li>○ 同一競技者が警告3回→失格 Kが不適切行為—Kが不適切行為—Kが不適切行為 …Kが失格</li> </ul>